

---

# チェンジ

アオ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

チェンジ

### 【Nコード】

N6112C

### 【作者名】

アオ

### 【あらすじ】

ある会社で働いている男性の目の前に、突然男の子が現れる。

その日は太陽がいつもより元気で、雲さえ近づけさせないようにさんさんと光っていた。

「困るなあ、水野君。これで何回目だと思っているんだよ」「上司の男が、ねちねちと僕を責める。」

それに僕は「すいません。すいません…」と何度も謝っている。

クーラーがガンガンに効いているオフィスは、北海道の冬並でみんなは何枚もの服を重ね着している。

僕の目の前にいる男が汗かきで、これくらいがちょうどいいらしい。迷惑な話だ。

「君は本当に、自分が何したのか分かっているのかい？」

「……課長のコーヒーを、勝手に飲んでしまいました。ホントすいません」

僕の仕事での机はこの男のデスクのすぐ隣で、しかも二人ともきれいだから何も置かない。

しかもこの男がいつも飲んでるコーヒーが、私が大好きなコーヒーと同じだから、その違いも分からない。

「君ねえ……上司のコーヒーを勝手に飲むなんて、いったい何がしたいんだい？」

「そう言っている課長も、数回おれのコーヒーを勝手に飲んでんじゃないんですか?!」と心の中で怒鳴る。

周りにいる社員は、パソコンに目を向かせながらちらちらとこちらを見る。

ああ、またか。みたいな感じだ。

そこで、だ。

おれの人生を覆す男が、立ち上がった。

隅のほうから「かちよーさん」と、間延びした、そして場違いな、その上、子供の声が聞こえてきた。

透通る声に、みんなが振り向いた。

そこには一人の男の子が立っていた。

いつの間に入ってきたんだろう、と思っっているうちに、その少年は近く似合ったデスクの上においてあるコーヒーを手に取って近づいてくる。

みんながただ見ていたら、その子は課長のすぐそばにいた。

「なんだい？坊や」と、さつきと全然違った態度で少年に効いている課長を、その少年はじっと見つめて、そして、こちらを向いて一言。

「……あんたがこんなやつの下にしているなんてね」

そして少年は、コーヒーを少し啜ると「苦い」と言っ、課長の顔の位置にコーヒーを浴びせた。

「それに、不味い」

課長はその場にひれ伏すように蹲って、唸っていた。

「どう？すつきりした？」

少年はこっちを見て、にやりとした。

この場をどうしたらいいのか、ちゃんとした答えが来るのが遅かったから僕はつい、本当の感情をむき出しにして、課長の脇腹を右足で思いつきり蹴った。

僕は少年をまねて、にやりとし「ああ、すつきりした」と言った。

クーラーの音、沈黙と課長のうめき声だけでオフィスが満たされ

ていると、少年が「じゃあ、いこうか」といって、背を向けた。真っ白な頭には、少年の声が不思議なほど響いて考える暇を与えなかった。

「ああ、行こうか」

僕は、少年の後を追いかける。

残された社員は、ただ、茫然としていた。

僕は、開放感に包まれたまま、見知らぬ子どもの後を追った。

この子どもが、未来から来た僕の孫だと気づくのは、まだまだ先の話……………

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6112c/>

---

チェンジ

2011年10月4日08時54分発行